

いくぞう 通信

議会レポート

No.19号

2018年12月議会報告

後援会事務所 栃木市岩舟町古江 792

TEL・fax 0282-55-3020

携帯 090-9010-7042

Eメール i-hary@cc9.ne.jp

あなたの相談相手、
気軽にお電話ください。
栃木市議会議員 針谷育造

2019年・新年おめでとうございます

今年もよろしくお願ひします

11月30日から12月19日までの20日間、12月議会が開かれ、平成30年度一般会計、特別会計補正予算、議会議員、職員の給与改定、指定管理者の指定13件を可決し閉会した。また陳情2件は不採択となった。

75歳以上の医療費負担・・・23474人の高齢者

1割から2割にしないでの願ひを・・・否決した

難病患者の負担増やめでの願ひも・・・否決した

75歳以上の医療費の1割負担から2割負担にしないように求める陳情が否決された。市内には75歳以上の方は23474人いる。全人口の14.5%で、7人に1人に当たる。正に高齢者いじめが市議会で行われたのである。残念！

また難病患者の自己負担の引き上げや、認定基準の強化が行われる陳情も否決された。市内には難病受給者は1164人、子ども受給者は169人です。市民に寄り添い、自分の頭で判断すれば結論は出ることだ。しかし

6対23で不採択になった。賛成討論は2名（針谷育造、川上均）で、反対討論はなし。やれなかった。議員とは何かを試されたと言ってもいい。市民の命や健康を守るために尽くすのが議員の仕事である。なぜそれが素直にできないのか不思議だ。ちなみに賛成した議員は（茂呂健市、川上均、内海成和、針谷育造、白石幹男、天谷浩明）「一番弱い立場の人こそが、幸せに一番近いところに居なければならない。それができるのは行政であり政治である」元藤岡町長の言葉



一般質問

1、斎場整備について

市長「見直しを撤回する」の答弁

しかし市政を混乱させたの…反省は聞かれず

一般質問の関心は、新斎場の見直し問題を市長がどう判断するのかでしたが、混乱させた市長の真摯な責任の言葉は

なかった。極めて残念な答弁に、「事の重大さがわ解っていないのではないのか」の声も聞かれた。

市長はこの混乱から何を学び、

今後の行政にどう生かしていくのか

針谷「市長はこれまで多くの時間と予算をかけてきた斎場再整備計画について建設地の見直しを8月31日に突然発表した。これについてはふれあいトークや議会報告会で市民から大きな批判があった。市議会議員有志21人も

議会の議決権の否定にかかわる問題と考え、市長に撤回を申し入れた。その結果、市長は11月16日の記者会見で見直しの撤回を表明した。市長はこの2か月の混乱から何を学び、今後の行政にどう生かしていくのかを伺う。」

市政の混乱と停滞を避けるために

三谷地区の見直しを断念した

市長「選挙運動の中で見直し意見をたくさん聞いたこと。私が市長になったことで市民の見直し意見が出てきたこと。6月に寺尾、続いて西方地区から陳情書が出されたこと。また県から、土砂災害特別警戒区域に2か所が新た

に指定されことから見直しを表明した。しかし議会有志の申し入れなどもあり、これ以上の市政の混乱と停滞を避けるために見直しを断念した。今後は市民の安全安心、福祉向上に努め、法令遵守で進めていく。」

市長の職務命令は絶対ではない！…部下は家来ではない！

針谷「市長の命令は絶対ではないのです。まず法令に従った命令でなければ聞く必要はない。」職員は誇りを持つべきです。

部長「今後の計画は2019年2月までに都市計画審議会で決定し、2024年末までに完成させる予定です」

2、都市計画審議会について

正しい意見は排除され、

法律を無視した意見で齋場計画が継続審議に

これが法治主義の行政か？



都市計画審議会は、平成29年12月26日に開かれ、本来の審議意見は無視され、法律に基づかない一部の〇委員（学識経験者？）の発言で「継続審議」になった。白昼堂々と、公式の場で違法な？決定をしたのである。

都市計画審議会とは、市長の附属機関であり都市計画に関する事項を調査、審議する。

審議会委員は19名で学識経験者6、議会5、県職員2、市民6名で組織。

「市長が変われば、齋場計画の見直しの可能性もある」・・・？

これが堂々と結論になる・・・こんな無法は行政ではない！

議事録から その一部を紹介する。

〇委員(学識)西方からは遠くなり、三谷地区には反対看板がありコンセンサスが得られていない。来年には市長選挙が控えており、政争の具になる可能性の案件なので選挙が終わってからゆっくりと審議すべきで継続審議としていただきたい」

〇委員(市民)この審議会で決定することが政争になるのか。この場が事業の進め方について審議するのか疑問である。(当然の意見です。)

針谷「このような法を逸脱した審議結果は違法でないか？」

部長「審議会の総意で決定したので有効である」

信じられないことがまかり通る

〇委員(学識)市長選挙が終わってから落ち着いた時期に審議し、市長が変われば計画の見直しの可能性もあります」

他に原案賛成の意見がありましたが、逆らう意見が言える雰囲気になかったと参加者の弁。こんな本来の審議事項と関係ないことで継続審議になったのです。行政も落ちるとこまで落ちたものです。職員は辛くても、仕事として指導して欲しいものです。

針谷「市長はこの審議結果を知っていたのか」

市長「後で知った。(本当かな？の疑問は消えない)

前代未聞のことが白昼堂々と行われたのです。これで「行政を信用してください」などとは、とても言えるものではない。職員もしっかりして欲しいものです。

3、東海第2原発災害広域避難計画について



東海第2原発とはどんな原発か？

怖い原発

運転開始から40年の老朽原発です。規制委員会はさらに20年の延長を認めた。出力110万キロワットの巨大なもので、電力を関東電力と東北電力に売っているだけで消費者との結びつきはない。福島沖地震の津波で被災し今は運転していない。原発の複雑な装置が8年間動かさずに正常に動

く保証もない。しかも首都圏に近く東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、栃木、茨城には3642万人が住んでいる。霞が関まで120キロ。ここで爆発したら日本の中枢がマヒすることは明らかである。クワバラ、クワバラ。老朽原発を動かすな。それですべて丸く収まる。やるしかないだろう。

市長は再稼働に反対ですか？

針谷「市長は6月議会で東海原発の再稼働に反対する答弁をしてきたが、市長になった今でも変わらないか」

市長「地震国でもあり再稼働には慎重な対応を国にしてもらいたい。自然エネルギーを中心にすべきであると考えている」

県内東部にある8市町議会（真岡、芳賀、市貝、益子、茂木、那須烏山、那珂川、塩谷）が再稼働反対を表明している。しかし栃木市議会では不採択になった（8対21）市民の立場で判断して欲しいものだ。

市民も、議会も 誰も知らない間に、

水戸市と広域避難協定を結ぶ！

5月21日水戸市と原発災害の避難協定で6621人受け入れを決めた。しかし議会にも、市民にも何も知らされていない。役所内の体制も明らかでない。そんなことで受け入れられるのか。と聞いたが「これか

らとの」回答である。東海第2原発まで栃木市は80キロにあり被害を受ける可能性もある。こんな騒ぎに巻き込まれないための安全策は明白である。

原発…再稼働させないことが…一番の安全策です

放射能さえなければ 福島に原発さえなければ、もっと早く復興できたのは誰も認めるところだ。地震と津波だけならとっくに故郷に帰れたはずである。放射能で汚染されなければ人口減少も、自然の野山も復活できたはずである。巨悪の根源は東京電力と

政府にある。地元自治体もお金という毒まんじゅうを食わされ浮かれ、安全神話にすがっていたが後の祭りである。新聞は「安倍政権の原発輸出が頓挫した」と書いている。日本のダメな原発で金儲する魂胆は、世界で見抜かれた格好だ。